

長時間の撮影にもかかわらず、一コマ一コマ集中力されていたのは、驚きでした。ファンミーティングの真っ最中ですよ。ファンのステイ(Stay)のためのステージなので、準備する間ずっと気持ちが高まっていて、その思いが今日の撮影まで続いた感じですよ。一人じゃなくて、STAYと一緒にしてくれるような感じですかね。すごい愛ですね(笑) 3月20日の24回目の誕生日には世界中からお祝いが殺到しました。こんなに大きな愛を受ける気持ちはいかがですか？身に余ります。自分自身長く知り合った少数にだけ深く心を開くタイプなので、誕生日が来るとあれこれ考えたり緊張したりもします。でもファンからのお祝いは100%純粋な思いからじゃないですか。そのためか、ファンから祝ってもらった時が一番幸せでうれしいです。3年半前に<ELLE>と会った時は「Back Door」が<タイム>誌選定2020年最高の曲の中でKポップで唯一選ばれ、皆を驚かせた時期でした。数々の記録を打ち立てた今、そのことは遠い記憶でしょうか。そうでもありません。過去のミニアルバムが初めてビルボード「ホット100」チャートに進入するなど、感謝することが多くありましたが、舞台上上がった時を除けば感じにくいんです。成果を達成したからといって、それに満足する性格でもありません。私たちの立場で認められたと感じた時、一番幸せだと思います。その時はその時期にできることを成し遂げたので、今はまだやりたいことがあります。昨年、MTVビデオミュージックアワードでベストKポップ賞を受賞のようですね。普段から好きで尊敬してきた海外のポップスターたちと同じステージに立つというのが、まだ夢のようです。だからもっと雰囲気や舞台を楽しみたいです。今年初めにパリで開かれたチャリティーコンサートのビハインド映像を見ると、好きなアーティストにサインをもらう事をためらっていましたが、すごく緊張しました(笑)グズグズしてたら、ヨンボク(フィリックス)が私を連れて行ってサインをもらってくれました。一番最近のアルバム「楽-STAR」の収録曲「死角地帯」の歌詞の中で「They only look at the results and success (人は結果と成功だけを見ている)」の歌詞はStray Kidsの話のような気もしました。2018年のデビュー以来、色々なことを経験しながら、今の位置まで上りつめたので。本当に一つ一つ上がってきました。メンバーもチームを大切に思っているのですが、孤独ながらも奮闘しながら一段階ずつ上がった過程をすべて生々しく覚えているからだと思います。今振り返ってみると、跳躍のための準備期間のようにも感じられる

時間です。過程も重要ですが、ある程度成果がある時に初めてチームの未来を安心して描くことができるようになるじゃないですか。デビュー7年目のStray Kidsにとってそんな時はありますか？今も変わらずその過程にいます。私たちが努力してきたことに満足したくないし、もっと多くのことをやり遂げたいんです。相変わらず見えない努力の過程が重要であり、結果はついてくるものだと思っています。全然満足したり安心していませんね(笑)自分だけじゃなくて、メンバー全員が感じます。K-POPの舞台は本当に広いじゃないですか。新しくデビューするチームも多いので、遅れをとらないようにしたい気持ち、今の位置で堂々としていきたいんです。ファンの愛のおかげでここまで来たのに、私たちの実力がそれに及ばなければ、それだけ恥ずかしくすよね。今年のゴールデンドイスクアワードで「偉人伝」のステージを披露することになったことを喜びながら練習する姿が印象的でした。数万席の海外スタジアムを埋めて、フェスティバルのヘッドライナーに立ちながらも、そういう姿勢ですよ。新人のような覇気、野望が映し出されることを願います。私も新人時代、情熱的な先輩アーティストのステージを見て「こういうのが本当に素敵なんだな、私もこうなろう」と思ったんですよ。場数をふんで多少の余裕はきましたが、情熱だけは手放したくないです。18歳でデビューした後もダンスをもっと学びたくてソウル公演芸術高等学校の実用舞踊科に進学し、常に練習熱心ことで有名です。そんなヒョンジンが振り返っても本当に頑張ったと褒めたい時期は。2021年秋、スタジオダンスチャンネルの「Artist of the Month」でダンス映像を準備していた時期です。出演提案を受けて悩んだ瞬間から練習、撮影するすべての過程が大変でしたが、私をより一層成長させてくれた時間なんです。特に、他の出演者たちが私たちとデビュー時期が同じだったので、Stray Kidsを代表して私が出演するというプレッシャーがすごかったです。それでも結局やり遂げた理由は。負けん気です。自分自信にも該当します。自分が思い描く姿に実際に私が及ばなかった時、苦しいんです。でもそれを乗り越えてみたかったんです。恐怖のためにあきらめることなく。そしてここ数ヶ月も本当に一生懸命生きています！常に変わるダンストレンドに合わせてダンスレッスンを熱心に受けているところですよ。観客が入場する前、誰もいないステージを見る時どんな気分になりますか？Instagramにアップしたステージを走っていく映像には「幸せ」というコメントがありました。正直、「こんなに大きなステージでミスしたらどうしよう？」という思いをよくします。沢山の人の期待に答えなければ

ばならないというプレッシャーもあります。それでもリハーサルの時、曲が鳴り響くと胸がいっぱいになります。実際すべての過程が幸せです。このように大きな舞台に立つことができるということ、私たちを見てくれる人がこんなに多いということすべて。**ステージのパフォーマンスに対するプレッシャーは**。僕は「トン」とインパクトを与える役です。ダンスはリノさん、ボーカルはスンミン、全体的なプロデュースをするバンチャンさんが中心にいます。それで私のパートを悩んで楽しむだけで、プレッシャーはありません。**Stray Kids は、アルバムやレコーディングへのメンバーの参加率が高い独自のチームです。ヒョンジンの自作曲である「가려줘 Cover Me」の録音ディレクティングを直接する面は新しかったです。**ディレクティングが初めてではありませんが、メンバー全員が真剣に取り組んでくれて楽しかったです。残念ながらファッションウィーク参加など、いろんな日程のため最後まで参加できなかったんですけども、**今年3月には「SKZ・レコード(SKZ-Record)」を通じて「Hey you」と「Long for you」の2曲を相次いで披露しました。2曲とも映画「クローザー」(2004)からインスピレーションを受けたと伺っています。**『クローザー』は愛の二面性をよく描いた映画じゃないですか。映画の中の話が私の中に自然に溶け込んだのか、書きたい曲を想像する時、この映画が思い浮かびました。自分が考えていること、話したいことを歌で表現することに大きな意味を置いています。**メンバーのチャンビンがヒョンジンの長所として「フィードバックを恐れずに要請すること」と話したことがあります。そのように受けたフィードバックはどのように受け入れますか。**私は全部受け止めます！相手が私のためにしてくれた話だと思って謙虚に受け止めます。私が持っているものが私だけの色になるかもしれませんが、それが強すぎると枠に閉じ込められるような気がします。音楽であれダンスであれ、全てにおいてオープンでいて学びたいので、もっと積極的に受け入れようと思います。プライドを守ろうとしたなら、最初からフィードバックも求めなかったでしょう。**その中でも力になったフィードバックがあるならば**。メンバーは、僕のプライドを守ってくれます。時には自信が足りない私をもどかしく思うこともあります。上手だという賞賛が本当に感じられない瞬間もありました。**そうなんですか？なぜでしょうか。**反応がよかったと意気揚々として、自分自身に心酔した時期がありました。でも今あの時を振り返ってみると本当に足りなかったんですよ（笑）むやみに「上手だ」というより、少しのとげがあっても足りないところまで話してくれるのが本当の褒め言葉だと思います。短所が見えても良い点をまた見つけて

くれることこそ愛情ですから。**健全な批判は信頼に基づいて可能なものではありません。**私がフィードバックを求められた立場の時も同じです。もっと良くなりたくて私に聞いてみたのですが、率直に言わなければその人はずっと同じ場所にいるようになるじゃないですか。**ツアーの時もいろんな種類の筆をケースに入れて持ち歩くくらい、絵を描くことに本気ですよ。ね。どんな絵を描けばいいのか、その対象を探すのが難しいですか。**難しいですね。最近は、何を描けばいいのかについて 悩んでいるだけです。一人でいる時に落書きするのが日常になりましたが、それでも私という人を思い浮かべた時に連想する絵が一つくらいあればいいなと思います。一応最近**は木蓮をずっと描いてはいます。おお、意外なテーマですね。**偶然曷剎근（ボク・ヒョグン）詩人の「木蓮後記」という詩を読んだのですが、木蓮が咲いて散ることも、私たちが生きている世の中も大きく変わらないんです。モクレンは桜のように人々から大きな愛を受けることもなく、咲いた時はきれいだけど茶色に変わって落ちた姿はあまり美しくないじゃないですか。それを憐憫に思わないようにしようというのがこの詩のテーマですが、それ以来木蓮を探求しています。**このように「ふわふわ」な感受性とはどうやって養われるんですか。アーティストとしては長所ですが、疎い方が楽な時もありますから。**創作というには多少大げさですが、今のように踊って、曲も作って、絵も描いて、写真も撮るこのすべての活動をちょっと休みたくなる時もあります。想像も止まりますし。でも、それを思うようにできない自分がちょっと疲れているという気はします。しかし、結局このすべての過程を経て、ある結果物を作り出した時、そしてそれを世の中にお披露目する時が一番面白いです。**一番面白いんですね（笑）**とにかくやり遂げたから。そしてまた、これを一緒に聞いて、見て、共感してくれる人がいるじゃないですか。そこで幸せを感じます。**今日ヒョンジンの指にはめていたカルティエ・トリニティ・リングは愛、信頼、友情の三位一体を意味します。この中で今ヒョンジンに一番心に響く価値は。**友情！いつからかどんな感情よりも友情が一番「濃い」ような気がします。友情をうまく築き、私の人生にそれが丈夫な支えになってくれれば、恐れることはないと思います。どんなものもよりも。